



開館時間／展示観覧 10:00 ～ 17:00
カフェ・ライブラリー等(※季節による)

休 館 日／火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)
休 館 日 12月31日 1月1日 12月31日

観 覧 料／大人(高校生以上) 300 円
小人(小学生・中学生) 200 円
※団体割引(20名以上)、障がい者手帳を
保有する場合一律50円引き

【年間パスポート】
大人(高校生以上) 600 円
小人(小学生・中学生) 400 円
※障がい者手帳を保有する場合100円引き

お問い合わせ／0996-35-1865



柳原白蓮の歌碑

ようこそ いちき串木野市へ

←至薩摩川内市
⑭サンセットパーク



⑭サンセットパーク
東シナ海や鶴列島が眺望できる絶景の場所



⑮萬福池
灌漑用水池(西郷隆盛が工事に参加していたと伝承されている。)



④げたんは階段
鹿児島島の郷土菓子「げたんは」のような形をした階段です。東川隆太郎氏による「世間遺産」として認定されています。



⑤薩摩藩英国留学生記念館
羽島より旅だった「薩摩藩英国留学生」を顕彰して建てられた歴史史料館です。

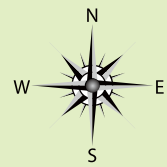


⑥玉石積の防波堤
享保年間に島津藩が築いたとされる波止場。その後、西郷隆盛が弘化5年の改修に携わったとされ、「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれています。



⑦漁民アパート
昭和41年の大火災ののち、昭和42年に建てられた商店を兼ねた4階建の鉄筋アパートです。羽島の移り変わりを見守り続けてきた「世間遺産」とされています。

いちき串木野 街あるき MAP 羽島



羽島中学校(文)
羽島小学校(文)

お帳付跡

戸長役場跡

げたんは階段 ④
漁民アパート ⑦
羽島漁協うんのもん ⑧

藤崎家跡 ⑨
川口家跡 ⑩

生誕の地 ⑪
萬造寺

⑥玉石積の防波堤

⑤薩摩藩英国留学生記念館

③羽島漁港

● 観光船待合所

②萬造寺の歌碑

①羽島崎神社



①羽島崎神社
毎年、3月頃に「太郎太郎祭り」が開催されています。また中にはゴンザ神社もあります。



②萬造寺の歌碑
羽島で生まれた歌人、萬造寺の望郷の歌が刻まれた歌碑です。



③羽島漁港
漁船などが並ぶ羽島の漁港です。また、この港から、クルーズ船(オーストラライエン号)に乗ることが出来ます。



れいめい羽島 観光遊覧船「オーストラライエン号」

薩摩藩英国留学生が遠征の際に乗り込んだ船の名を冠した観光遊覧船です。綺麗な深海の魚たちや沖の島にいる野生の猿を観に行く回遊コースを始め、薩摩藩留学生のルートを迎える航海体験コースや魚釣りコース(要予約)など、5つのコースがあります。(各時間・料金については下記を参考にしてください。)

予約・問合せ
B マリンサービス
れいめい羽島観光船
TEL 0996-31-0050 or
090-3197-4878



⑫南方神社

毎年8月に「羽島太鼓踊り」が奉納される神社です。「羽島太鼓踊り」は文禄・慶長の役で朝鮮に渡った島津義弘の帰還を祝ったことに始まり、約400年続く鹿児島県無形文化財の伝統行事です。東郷の山田楽を取り入れたという伝承があります。



⑬くしき野 白浜温泉 みすまの湯

絶景の東シナ海が一望できる源泉100%の温泉です。お食事や入浴はもちろん、バースタイルのカフェもオススメです。南国リゾート気分を味わえます。

南方神社⑫

→ 至市街地 →
⑬くしき野 白浜温泉
みすまの湯 →

いちき串木野 街あるき MAP 冠岳



徐福について

今から約2200年前に秦の始皇帝より「不老不死の仙薬」を求める命を受けて、この地を訪れたとされる人物です。徐福は冠岳を訪れた際に、その景色の素晴らしさに感動し、自らの冠をその頂上に捧げたと言われています。このことから、この地を「冠岳」と呼ぶようになったという説があります。



①冠岳神社

冠岳熊野三所権現の1つで、祭神はスサノヲノミコト(クシケノミコト)です。このことが「串木野」の由来という説もあります。

②冠嶽園

方士「徐福」を顕彰し、徐福の故郷である中国との友好交流の願いを込めて平成4年に作庭・開園された中国風庭園です。



③望嶽亭と水鏡

湧水を利用した池などがあり、中国文化との交流の架け橋となることへの願いが込められています。毎年6月～8月には睡蓮や蓮の花が楽しめます。

④蓮苑(れんえん)



年代橋

花川の下流から上流に向かって架かる10本の橋です。ひとつの橋を渡るごとに、徐福が不老不死を求めて訪れたとされる「霊峰 冠岳」に近づき、健康に年代を重ね、全ての橋を架かることで仙人のような長寿を得るという物語を表現しています。



①徐福橋(10代橋)

徐福が冠岳に向かう過程で最初に渡る橋として、この世に生を受け、人生の旅立ちを意味しています。



⑥花川橋(60代橋)

冠岳神社への参拝の入り口として地元の人々の心にある神社の存在を尊重しています。



②仙人橋(20代橋)

仙人のような不老長寿になることを夢見て、100代橋の先、上流にある桃源郷を目指して渡っていきます。



⑦神師橋(70代橋)

冠岳神社と大師堂の「神」と「仏」を結ぶ橋です。日本の神仏習合の思想より名付けられています。



③昇竜橋(30代橋)

橋の欄干には二匹の龍をモチーフにしてあり、若者たちの成長を祈願しています。



⑧天寿橋(80代橋)

中国において80代は「天寿」を表しています。ここは云わば、人生の関門であり、これを越えることは仙人世界への入り口を訪れることとされています。



④蓮心橋(40代橋)

湧水を利用した池などがあり、中国文化との交流の架け橋となることへの願いが込められています。毎年6月～8月には睡蓮や蓮の花が楽しめます。



⑨神仙橋(90代橋)

神仙とは不老不死の世界に住む仙人のことを指します。90歳代により仙人の域に達することを願って名付けられています。



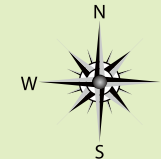
⑤蓬莱橋(50代橋)

徐福が不老不死の仙薬を求めて、蓬莱の国に渡来した伝説から名付けられています。ちょうど50代という100歳の中間地点ということで花川



⑩雲天橋(100代橋)

聖域に至る橋として、彼岸に辿り着く短い路をイメージしています。また、この橋は中国における「雲の上には天があり、天の外には天がある」という無限思想を表現しています。



いちき串木野 街あるき MAP 照島



フィッシャリーナ



なぎさ公園



照島海の駅



海の駅食堂



⑨方士 徐福登陸の地

約2200年前、秦の始皇帝の命を受け「不老不死」の妙薬を求めて方士徐福一行が上陸したと伝承されます。



⑩驪龍巖 (りりようがん)

寛政2年(1790)3月、島津家26代 齋宣公が市来温泉に湯治に来た折り、照島に立ち寄りました。男池と女池を眺めて、しばらくして男池の上にある岩に驪龍巖(りりようがん)と書かせ彫刻させました。

⑩ りりようがん
驪龍巖

⑪ 男池 (おぶち)

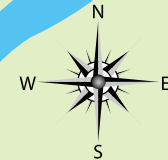
⑫ 女池 (めぶち)



浜競馬

石田耕三の歌碑●

なぎさ公園●



→ 浜競馬場
(4月開催)

① 大鳥居

② 太鼓橋

平べどんの角●

唐ねこどん(こま犬) ③

④ さつま焼 陶工上陸地

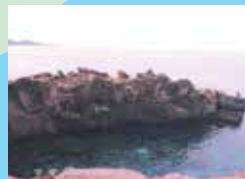
手洗鉢 ⑤

⑦ 経塚の碑

⑧ 照島神社

⑥ 馬頭観音

方士 徐福登陸の地 ⑨



⑪ 男池 (おぶち)

日本神話に出てくるイザナギノミコトとイザナミノミコトの御子夷の三郎の神は、三歳になっても足が立たないので葦の舟で島平浦に流れ着き、上陸された島を「照島」と名付けました。鉢が回復するまで照島で釣りをして楽しんでいました。釣りをしていた場所をナギ池(男池)ナミ池(女池)と称され御両親神を偲ばれていたそうです。



⑫ 女池 (めぶち)



① 大鳥居

大鳥居は元々道路側にありましたが、区画整理の為、現在の場所に移っています。現在の鳥居の場所は、かつて漁協があった場所で、ここで水揚げがされていました。



② 太鼓橋

照島は、東西250m、南北100mぐぐの小さい島ですが、怪石、奇岩が多く四季の変化に富んでいます。陸と島をむすぶ朱の太鼓橋は、松の緑に映えて美しく、年月を経た石段を登ったところに照島神社があります。現在の橋は3代目で、昭和59年3月に完成しました。



③ 唐ねこどん(こま犬)

普通は狒犬ですが、照島神社は唐ねこどんが「あー」「うんー」と口を開けて座っています。(物事の始まりは「あ」で始まり「うん」で終わる。すなわち全てという意味。)
昔は数代あったとも言われ、朝鮮の陶工達の寄進ではないとも言われています。



④ さつま焼陶工上陸地

慶長3年12月、島津義弘・忠恒親子が朝鮮出兵の際朝鮮陶工70余名を連れて凱旋しましたが、鹿児島に行くことを拒んだ43名の陶工達が、この地に上陸しました。



⑤ 手洗鉢

元禄14年(1701年)ころ、海の事故で沢山の漁師の方が亡くなられ、亡くなられた方を供養するために造られました。



⑥ 馬頭観音

馬、牛、他家畜の守り神で食べ物神様です。働きの馬、牛を供養するために作られました。



⑦ 経塚の碑

その昔、冠岳の修行僧が照島にあった大きな洞穴の中で修行していました。そのような事から照島には、お寺にちなんだものが沢山出てきたそうです。



⑧ 照島神社

日本書紀によると、照島湯で、蛭子神が、魚釣りを楽しまれたそうです。大阪の住吉大社と同じ御利益があります。御祭神は「商売繁盛」の大己貴命(おおなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこなのみこと)、「山の神様」の大山積命(おおやまづみのみこと)です。

いちき串木野 街あるき MAP

市来 湊町

八房神社●

薩摩鶏総本舗
とり魂●

①川口番所

菅原神社②

孝子徳右衛門の墓③

導流堤④
(僧月照上陸の地)

●市来えびず市場

いちき庁舎●

●御仮屋跡⑤

八坂神社⑥

お食事処ぎおん●

●御仮屋通用門⑦

てっちゃんそば●

●浄泉寺

市来神社⑧

D cafe●

いちきアクアホール●

日之出橋
(ラブリッジ)

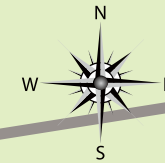
●市来保育園

白石酒造⑩

●焼酎蔵 薩州濱田屋伝兵衛⑨

●大和桜酒造

至鹿児島市→

ONE
LOVE●●薩摩串木野
まぐろの館

308

JR鹿児島本線



①川口番所

薩摩藩が藩制時代に置いた24の津口番所のうちの1つです。海陸交通の要衝地として船の監視をしていました。



②菅原神社

学問の神様で知られている菅原神社です。創建などは定かではありませんが、境内には狛犬や庚申塔が残っています。



③孝子徳右衛門の墓

昔、湊町に住んでいた徳右衛門という人物の墓です。彼は母への親孝行を尽くし、当時の藩主より米15俵の褒美を賜りました。



④導流堤

藩政時代の商港、宿場町として栄えた昔の名残が今も残る、石組の導流堤です。



⑤御仮屋跡

御仮屋は藩政時代において役所のような役割を果たしていました。当時は四方に柵があり、楼門があったとされています。現在では市来庁舎が建てられています。



⑥八坂神社

市来は古くから「商売の町」として知られ、200年以上前から祇園祭を行ってきました。八坂神社は地域の守り神でもあり、市来の祇園祭の発祥の地です。



⑦御仮屋通用門

かつて、野田氏の祖先が唐通使(通訳)として仕えていたことから、家来の使う通用門が払い下げられたものです。



⑧市来神社

近年はサッカーの御利益のある神社としても知られる神社です。御神木の根元からは市来随一の名水が湧き出ています。



⑨焼酎蔵 薩州濱田屋伝兵衛

古くより「市来」は水が綺麗であったことから焼酎作りが行われてきた町です。ここでは昔ながらの製法で芋焼酎を製造しており、見学も出来ます。



⑩白石酒造

明治27年に開業し、今に至るまで手作りにこだわった焼酎蔵の1つです。麴付けや仕込みも古式にこだわって作られた焼酎は大変人気です。